

学術講演会特別講演演者

(敬称略)

第37回	昭和60年	真木 正博 (秋田大学教授)	血液学からみた生殖機構の生理・病理
第38回	昭和61年	山辺 徹 (長崎大学教授)	外陰癌前駆病変の病理と臨床
第39回	昭和62年	清水 哲也 (旭川医科大学教授)	「リプロダクション」における画像診断の意義
第40回	昭和63年	五十嵐正雄 (群馬大学教授)	FSH 分泌の調節機序
第41回	平成元年	鈴木 正彦 (杏林大学教授)	骨盤内腫瘍悪性度診断の画像解析
第42回	平成2年	杉山 陽一 (三重大学教授)	生殖内分泌および周産期医学領域におけるインスリンの意義
第43回	平成3年	藤原 篤 (広島大学教授)	婦人科悪性腫瘍の集学的治療における放射線療法の意義
第44回	平成4年	望月 真人 (神戸大学教授)	トロホプラストーその機能調節と病態生理ー
第45回	平成5年	八神 喜昭 (名古屋市立大学教授)	不育症の病態：その免疫学的考察
第46回	平成6年	加藤 順三 (山梨医科大学教授)	性ホルモン受容体ー基礎と臨床ー
第47回	平成7年	一條 元彦 (奈良県立医科大学教授)	胎児・新生児免疫機構からみたウイルス母子感染
第48回	平成8年	廣井 正彦 (山形大学教授)	受精機構の解明と生殖補助医療への応用
		富永 敏朗 (福井医科大学教授)	着床機構に関する研究
第49回	平成9年	森 崇英 (京大大学教授)	女性生殖機能の免疫・内分泌調節
第50回	平成10年	荒木 勤 (日本医科大学教授)	胎児の体温調節機構に関する研究
第51回	平成11年	仲野 良介 (和歌山県立医科大学教授)	生殖内分泌学におけるパラダイム・シフト
第52回	平成12年	矢内原 巧 (昭和大学教授)	性ステロイドの代謝とその調節ーエンドクラインとインクラインー
第53回	平成13年	中村 幸雄 (杏林大学教授)	不妊治療におけるゴナドトロピンを用いた排卵誘発法の進歩と展開
第54回	平成14年	加藤 紘 (山口大学教授)	SCC抗原と癌細胞の生物学
第55回	平成15年	鈴森 薫 (名古屋市立大学教授)	遺伝子医療の到来ーヒトゲノム情報と21世紀の産科婦人科診療ー
第56回	平成16年	牧野 恒久 (東海大学教授)	生殖医療の総合的取り組みからみたヒト生殖のロスの研究
第57回	平成17年	水谷 栄彦 (名古屋大学名誉教授)	胎盤プロテアーゼー妊娠の枠を超えた多彩な機能ー
		村田 雄二 (大阪大学教授)	胎児、低酸素性虚血性脳障害の予測から予防・治療へー過去の軌跡とこれからの可能性ー
第58回	平成18年	麻生 武志 (東京医科歯科大学教授)	更年期医療の現状と展望ーWHI、WHIMS報告後の更年期・老年期障害に対するHRTのあり方
		玉舎 輝彦 (岐阜大学教授)	ホルモンと婦人科腫瘍ー予防医学および治療医学の側面よりー
第59回	平成19年	木下 勝之 (順天堂大学教授)	わが国の周産期医療の崩壊を防ごう！
第60回	平成20年	佐藤 章 (福島県立医科大学教授)	日本の周産期医療の将来に望む
		本庄 英雄 (京都府立医科大学教授)	中・高齢女性のさらなるQOL向上を目指して-HRT、心身医学の活用による全人的医療
第61回	平成21年	太田 博明 (東京女子医科大学教授)	産婦人科で果たす女性の健康支援としての役割
第62回	平成22年	佐川 典正 (三重大学教授)	子宮内環境と胎児
第63回	平成23年	星 和彦 (山梨大学副学長)	生殖医療ー過去、現在、未来
		和氣 徳夫 (九州大学教授)	嚢胞化絨毛のゲノム研究ー基礎から臨床へー
第64回	平成24年	石塚 文平 (聖マリアンナ医科大学教授)	早発卵巣不全の病因・病態・治療に関する研究
第65回	平成25年	宇田川康博 (藤田保健衛生大学教授)	婦人科がん治療ガイドラインー医師と患者と家族の絆ー
第66回	平成26年	石河 修 (大阪市立大学医学部附属病院病院長)	超高齢社会における女性の尿失禁の的確な診断と治療
		岡井 崇 (総合母子保健センター愛育病院病院長)	強出力集束超音波による胎児治療
		深谷 孝夫 (高知大学教授)	産婦人科内視鏡の進展と教育・臨床・研究
		宮崎 康二 (島根大学教授)	地方大学産婦人科ー苦悩から希望へー
第67回	平成27年	水沼 英樹 (弘前大学教授)	産科婦人科学の新しい診療領域ー女性医学の意義とその展開
第68回	平成28年	竹田 省 (順天堂大学教授)	妊産婦死亡「ゼロ」への挑戦
		平原 史樹 (横浜市立大学教授)	産婦人科領域における遺伝医学と遺伝診療ーヒトゲノムの多様性を尊重する中での新たな展開と発展ー
第69回	平成29年	増崎 英明 (長崎大学教授)	胎児ーこの未知なるもの
第70回	平成30年	秦 利之 (香川大学教授)	新しい胎児行動学の夜明けを迎えて (仮題)